2017年2月号「vol.80」 ◎編集：新井絹世　横浜市磯子区丸山2-10-6　◎電話：045-751-5250 ◎FAX：045-751-7600

県議会議員

あらい絹世の 磯っ子レポート

県政をもっと身近に

http://www.araikinuyo.jp

19カ所に施設を開設、ブランド品6点を開発
神奈川県が未病対策の取り組みを始め3年

高齢化のスピードが全国でも1、2位とされる一方、「健康寿命日本一」を目指している神奈川県では、県民の健康づくりの一環として2014年度から心身の未病の状態を改善していくことに力点を置いた未病への取り組みをスタートさせました。超高齢社会を幸せに生きるには特定の疾患の予防や治療にとどまらず、心身の状態を整え改善することで、生活習慣病状態などの未病を改善することが肝心との考えを基にしたものです。2014年1月、黒岩祐治知事が「未病を治すかながわ宣言」を行い、4月にはヘルスケアニューフロンティア推進局を新設するなどして未病対策、関連の産業の創出への取り組みをスタートさせました。未病を前面に押し出した取り組みは全国でも初めてですが、県の施策は「健康寿命の延伸」部門と、最先端医療・最新技術の追求と未病を改善することを融合させた「未病市場・産業の創出」部門の二本立てで進められています。

毎年10月を未病月間に定め、2015年から毎年、横浜で未病関連の開発技術と開発された商品・サービスを紹介する展示会を開催。世界に向けて発信していこうと国内外の専門家も参加した未病の国際シンポジウムも開催され、今年10月に2年ぶりに国際シンポジウムを開くことになっています。市場・産業創出の推進母体である未病産業研究会の会員は当初64でしたが今では424の企業・団体・機関・研究会などに急増し関心の高さを示しています。そして県がこれまでに未病ブランドに認定した商品も6点出ています。味の素株式会社が開発した「血液から現在の健康状態や病気のリスクを評価するアミノインデックス技術」や、血液検査だけで脳梗塞のリスクを約85%の精度で検出できる「脳梗塞リスク評価サービス」、自宅で唾液を取り郵送するだけで遺伝的な病気のかかりやすさや体質の遺伝的傾向がわかる「遺伝子検査マイコード」などです。

一方、健康寿命の延伸のための施策としては、自治体、企業、団体などが各地に設置・運営し、県が認証した未病センター―がこれまでに19カ所出来ています。ここは市民が気軽に利用でき、健康測定・相談やアドバイスだけでなく健康改善のプログラムの実践を体験したり、情報交換などの交流の場としても活用されています。横浜市内には港北区と青葉区の2か所にあり、未病センターの認証を受けた港北区の調剤薬局チェーンのクオールでは、セルフチェックスペースで血圧・肌年齢の測定やイートインコーナーで健康・食事・薬に関する情報発信を行っています。

コレが言いたい！

県が進めている「未病を改善」する取り組みは、未だ県民の中に浸透しているとは言えません。未病ブランドに認定した商品や未病センターをもっと周知すると共に、今後も商品や未病センターの認定を増やし、未病と言う言葉が県民の目に触れる場を増やし未病の概念を知ってもらう必要があります。

今月のひと言

2月13日（月）より平成29年第一回定例会が始まります。期間は3月24日（金）までの40日間。平成29年度当初予算などが審議されます。

磯子 あれ？これ？

洋光台第一小学校

昭和41(1966)年に洋光台地区一帯が宅地造成され、当時、県下最大規模の団地の建設が始まり、昭和45(1970)年頃から住民の入居がおこなわれました。この為子供の数が急増し、昭和46(1971)年に洋光台第一小学校は第二小学校と共に、港南区の日下小学校から分離しました。

昭和56(1981)年に創立10周年を迎えたとき、児童たちが20年後の自分達に宛てたメッセージや作文、写真、当時の新聞などを入れたタイムカプセルを埋め、平成13(2001)年の30周年記念のときに開封しました。

また昭和59(1984)年の運動会と併せて子供たちが買い物時のポリ袋を再利用してデザインした鯉のぼりを披露して賑わいました。

同校は教育理念として、「お互いの違いを認め、誰に対しても思いやりをもって行動できる人権教育、支援教育」を目指しています。その一環である体験授業では、社会福祉や手話を勉強したり、給食の待ち時間を利用して「もっと学習したい、もっと授業がわかりたい」と意欲をもった子供たちが率先して学習する支援教室もおこなっています。

昨年運動会のテーマは「子供たち自らが創る運動会」で、高学年児童が運動会の企画から準備、当日の進行のリーダーとして活躍しました。

参考：20周年記念誌・元PTA役員・学校長の話

活動報告

1月14日(土)、県民・スポーツ常任委員会委員長として平成28年度神奈川県体育功労者・神奈川県スポーツ優秀選手表彰式に出席。

1月16日(月)、かながわ自民党女性議員局で東京児童相談所の視察を行いました。児童福祉法改正により、東京都の23区それぞれに児童相談所の設置が可能となりますが、専門的人材の育成やそれぞれの連携など課題は多いようです。

あらい絹世 プロフィール

- ●昭和43年3月8日　横浜市磯子区生まれ
- ●横浜雙葉小・中・高等学校卒業
- ●明治学院大学社会学部社会福祉学科卒業
- ●日商岩井㈱ / ㈱メタルワン
- ●自民党かながわ政治大学12期生
- ●平成27年4月　県議会議員2期目当選
- ●県民・スポーツ常任委員会委員長
- ●社会福祉審議会委員

✉あらい絹世に対するご意見・ご感想・ご要望・メッセージをお寄せ下さい・・・・・・・・・・ FAX 045-751-7600